

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和 8 年度学校評価 計画

学校名	佐賀市立松梅中学校	C : やや不十分である D : 不十分である
1 前年度 評価結果の概要	・学力の向上においては、学力調査等の分析をもとに、共通実践を行った。児童生徒の自ら考え、学びを生かす姿を追究し、手立てを工夫し、授業改善に生かした。今年度は、全職員の共通実践として、単元末における主体的・対話的な学習活動を設定し、思考・判断・表現力の育成を図りたい。 ・心の教育においては、いじめの早期発見、早期対応体制の充実に回ることができた。また、未然防止対策では、職員のローテーションによる講話や外部講師による講演会、さらには特別の教科道徳の授業等に全職員で取り組んだ。成果として、いじめ、問題行動等発生件数0であった。今年度は、課題である、将来の夢や目標をもち、ふるさとを大切に思う生徒の育成に重点を置きたい。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進においては時間外勤務時間の目標は達成できた。また、タイムマネジメントの意識も向上した。今年度は、部活動改革による校時限の見直しを始め、様々なアイデアを共有し、タイムマネジメントを意識した業務効率化をさらに推進する。 ・研究指定を受けた重点取組である道徳教育の研究には、研究主任を中心に組織的な体制のもと、講師を招聘しての研修や一人一授業の取組等を行ったことで、さらに職員の資質・能力が向上し、生徒の意識の向上につながった。また、保護者にも取組を周知することができた。今年度は、課題である内容項目の「生命の尊さ」について、判断力に加え、心情面の育成に重点を置きたい。	
2 学校教育目標	ふるさと松梅を担う心身ともに調和のとれた生徒の育成	
3 本年度の重点目標	① 社会に開かれた教育課程の実現 ② 学校運営協議会制度を生かした小中一貫教育の推進 ③ 郷土愛にあふれた心豊かな子どもを育む道徳教育の研究	

4重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上		○「自ら考え、学びを生かす児童生徒の育成」のために、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりの推進 ○全国学力調査及び県学習状況調査において、全ての教科で「知識・技能」の項目が県の正答率と同等。 ○生徒アンケートにおいて、「めあてを意識しながら、授業の振り返りをすることができたか」及び「苦手なことを克服するために、自主学習で自分なりに工夫して取り組んだか」の項目に対して肯定的な回答をする生徒が80%以上。 ○生徒アンケートにおいて、「授業中に、自分の考えを友人や先生にわかりやすく表現することができたか」の項目において、肯定的回答が80%以上。 ○学力調査で課題が見られた調査問題と同等の問題を学年末テストで実施し、県正答率と同等の結果を得る。		○めあてと振り返りの徹底。 ○知識技能の習得に特化し、苦手を把握しながら行うスキルタイムと自主学習の継続。 ○単元の終末に、身につけた知識を用いて思考・判断・表現する言語活動・学習活動を設定する。その際、自分の考えを可視化・言語化するためのツールの使用やモデルなどの手立てを工夫する。また、「自ら考え、学びを生かす生徒の姿」を意識した指導を行う。 ○学力調査で課題が見られた調査問題を分析し、改善の手立てを検討する。また、同等の問題を学年末テストで実施する。					学力向上	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権についての話を聞くことで、「人権を尊重することを心がけるようになった」に肯定的な生徒80%以上		・社会科と学年が連携しながら部落問題学習を実施する。 ・ふれあい集会で「いじめ・いのち・人権」に関わる講話を教職員が行ったり、ローテーションによる道徳科の授業を行ったりする。 ・全校の重点内容項目の中に「生命の尊さ」を入れ、「考え、議論する」道徳科の授業を実現する。					人権・同和教育 道徳教育	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていたと回答した教職員80%以上 ●Q-Uテストで学校生活不満足群の割合が全国平均以下 ○「学校は、生徒からの相談を受けたり、いじめ防止に取り組んだりして、子どもたちが、安心して学校生活を送ることができる対応をしている」と回答した保護者80%以上		・月に一度「心のアンケート」を行い、全教職員に回覧する。 ・毎月「生徒指導・校内支援協議会」を開き、目指す子ども像にむかって適切な指導・支援が行われているか確認する。 ・生徒指導教育相談部会を毎月、いじめ防止対策委員会を適宜開き、情報の共有や対応を協議する。 ・保健室来室時に健康相談を行い、担任と情報を共有する。					生徒指導 教育相談	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための能力や態度を育む教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上 ○「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」について肯定的な回答をする生徒80%以上		・各学年ごとのキャリア教育を計画・実施し、夢ノートとつなげることで、夢や目標を立てて逆向き設計の意識を育てる。 ・各行事や総合的な学習の時間の中で、具体的な目標や見通しを持たせる。振り返りの手立てを工夫する。 ・地域について考える取り組みや内容を積極的に取り入れる。					キャリア教育 総合的な学習	
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」 ●「健康を考えて行動できる能力の育成」	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ●「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた生徒80%以上		・各種集会等で交通安全についての話を行う。また、外部機関と連携し、交通安全教室や交通安全に関する講話を実施する。 ・保健体育の授業で、健康についての学習を行い、健康の意義と必要性について学ばせる。また、健康について学習したことを活かすことができているかのアンケートを学習後に行う。					保健・体育 安全教育	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 ○「タイムマネジメントを意識して業務改善に努めた」職員80%以上		・水曜日のノー部活デー、定時退勤日を励行する。 ・定期的に業務効率化についてのアイデアを共有し、意識の向上を図る。 ・会議や研修会の精選、長期休業中の年休取得推進ウィークの設定、学校DXの推進。					教頭	
●特別支援教育の充実	○個に応じた支援の充実	○「一人一人の特性について、他の教員と共通理解のもと合理的配慮を提供することができた」と回答した教職員80%以上 ○「子どもたちが、安心して学校生活を送ることができる対応をしている」と回答した保護者80%以上		・特別支援教育に関する職員研修会の計画的な実施。 ・一人一人の特性に応じた合理的配慮の提供。					特別支援教育	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○郷土愛にあふれた心豊かな子どもを育む道徳教育の研究	○授業力の向上 ○小中連携の取組 ○家庭・地域との連携	○「道徳科の授業の中で、友達や先生の話から、自分の考えを広くしたり自分を見つめ直したりしている」に肯定的な生徒80%以上。 ○校内研究の道徳アンケートまたはHUMANで、「真理の探究、創造」「道法精神、公德心」「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」「生命の尊さ」の内、各内容項目の大切さについて肯定的な生徒が80%以上。 ○「学校は、ふれあい道徳や道徳通信、学校ホームページを通して、学校で行っている道徳教育をわかりやすく伝えている」に肯定的な保護者が80%以上。		・6～1月に一人一授業(同時期に同じ内容項目の授業)を実施し、わらいと中心的な発問及び生徒の考えを深める手立てを中心に研鑽を深め、「考え、議論する」道徳科の授業を実現する。 ・道徳授業での共通実践事項や「松梅スタンダード」「対話の力」の徹底。 ・道徳通信を2ヶ月に1回発行し、学校ホームページで道徳教育の情報を公開する。 ・参観者参加型のふれあい道徳の実施。 ・地域に関する自作教材の活用。 ・実態把握のためのアンケートの作成と分析。 ・全体計画、年間指導計画、別業の見直し。					道徳教育	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5総合評価・次年度への展望